

## 金沢ふらっとバス利用促進

指導教員 金沢学院大学 経営情報学部 教授 奥井めぐみ  
 参加学生 伊藤拓真・大窪美矩・片山皓揮・金子大介・木村祐喜・黒川輝海・小山颯大  
 佐野和奏・丹後聖音・塔野航平・中栄玲郎・長沢実里・久木康佑・向葵・吉田美咲

### 1. 活動の成果要約

当ゼミでは、「金沢・LRT と暮らしを考える会」と「金沢市」の協力を受け、「金沢ふらっとバス利用促進」事業として、①「金沢ふらっとバス沿線でのアンケート調査実施」、②「主要バス停における聞き取り調査実施」ならびにこれらの調査の分析、③「金沢ふらっとバスデジタルフォトコンテスト」と「金沢ふらっとバス思い出川柳コンテスト」を実施し、金沢ふらっとバスの現状把握と利用促進に向けた企画を行った。

### 2. 活動の目的

平成 11 年からスタートした金沢ふらっとバスは、金沢市の市民の足として利用されてきたが、運転手不足により令和 3 年 4 月から減便され、さらにコロナ禍が追い打ちをかけ、利用者の減少が危惧されている。利用者の減少傾向に歯止めをかけ、地域の足を守るために、当ゼミでは独自のアンケート調査、聞き取り調査を行うことで、利用者の構成や利用状況等の現状を把握し、将来的なニーズを確認した。さらに、金沢市内における金沢ふらっとバスへの関心を高めるための企画として、金沢ふらっとバスデジタルフォトコンテスト、思い出川柳コンテストを実施し、入賞作品をポスターやポストカードとして、沿線の公民館や図書館等主要な施設に配布した。

### 3. 活動の内容

2 節の目標を踏まえ、次のようなスケジュールで事業を実施した。主な内容を以下で示す。

| 日時     | 主な活動                                                |
|--------|-----------------------------------------------------|
| 6 月中旬  | 金沢・LRT と暮らしを考える会の担当者と意見交換                           |
| 7 月上旬  | 沿線小学校保護者にアンケート調査依頼・実施                               |
| 7 月上旬  | バス停での乗降客聞き取り調査実施                                    |
| 10 月上旬 | 金沢市都市政策課歩ける環境推進課ご担当者様へアンケート調査・聞き取り調査結果のプレゼンテーションを実施 |
| 11 月中旬 | 川柳コンテスト、デジタルフォトコンテスト応募スタート                          |
| 12 月中旬 | フォトコンテスト結果発表                                        |
| 1 月上旬  | 川柳コンテスト結果発表                                         |
| 1 月末   | 入賞作品のポスター、ポストカードを主要施設に配布。(予定)                       |

#### 3-1. 沿線での独自アンケート調査の実施

実施方法：Google フォームで作成したアンケートによる調査

調査対象：金沢ふらっとバス沿線の小学校（明成小学校）保護者 17 名

調査時期：2021 年 7 月 1 日（木）依頼—2021 年 7 月 9 日（金）締切

#### 3-2. 主要バス停における聞き取り調査の実施

実施方法：金沢ふらっとバスの、特に乗降が多いと予想される武蔵が辻・近江町市場、香林坊・千石通りの2つのバス停の路上において、新型コロナウイルス感染対策として紙を指して回答していただき、必要に応じて聞き取りを行う。

調査対象：武蔵が辻・近江町市場、香林坊・千石通りの2つのバス停で乗降する人 27 名

調査時期：2021 年 7 月 9 日（金）12：00～14：00

### 3-3. デジタルフォトコンテストの実施

実施方法：コンテスト用 Gmail アドレスへの応募。大学 HP、金沢市 HP、沿線主要施設へのチラシ配布により、募集要項を公表した。

実施時期：2021 年 11 月 12 日（金）～12 月 15 日（水）

結果発表：大学 HP に掲載、また金沢市 HP にその内容を転載していただいた。また、入賞作品をポスターにまとめ、金沢市のご協力のもと金沢ふらっとバスの車内広告として掲載する。さらにポスターと入賞作品のポストカードを作成し、1 月下旬に沿線の主要施設に配布する。

### 3-4. 思い出川柳コンテストの実施

実施方法：はがきと Google フォームによる応募。公表方法はデジタルフォトコンテストと同じ。

実施時期：2021 年 11 月 12 日（金）～2022 年 1 月 4 日（火）必着

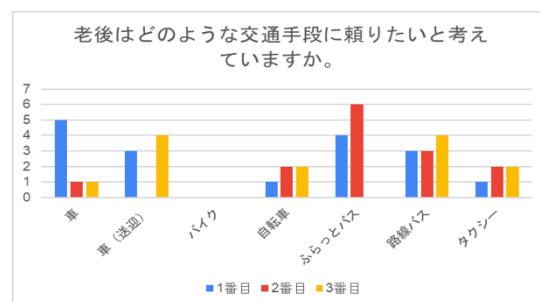
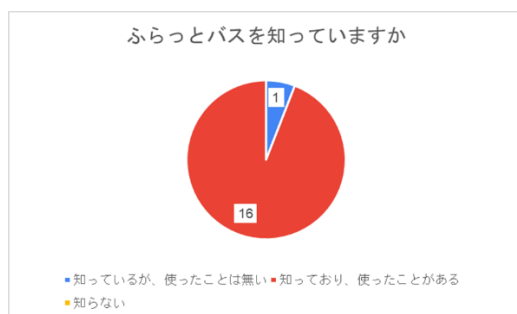
結果発表：デジタルフォトコンテストと同様

## 4. 活動の成果

本節では、①沿線での独自アンケート調査、②主要バス停における聞き取り調査、③デジタルフォトコンテスト、思い出川柳コンテストの3つについてそれぞれ活動の成果を示す。

### 4-1. 独自アンケート調査結果

明成小学校保護者 17 名より回答を得たアンケート調査の主な結果を示す。



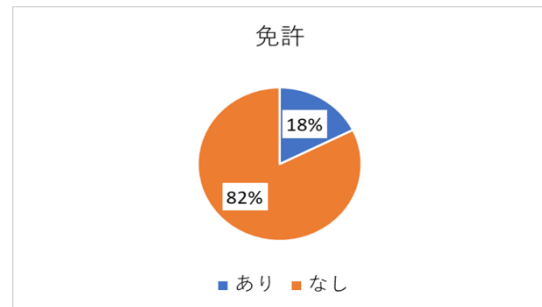
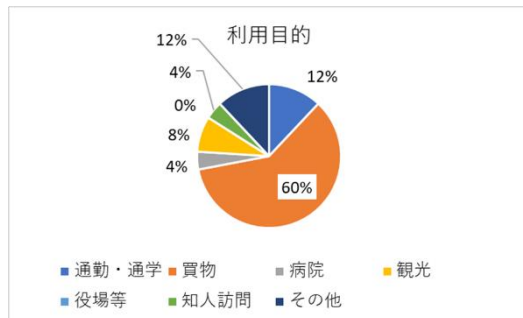
ふらっとバスの認知度は高く、回答者全員が知っており、95%の人が利用したことがあると回答している。

過去 1 年間で利用しなかった理由としては、「他の手段の方が早い」、「行きたい場所にバス停がない」という理由が中心で、利便性に問題があるという結果であった。

また、老後に頼りたい交通手段としてふらっとバスは注目されており、2 番目に頼りたい交通手段としてはトップで、「ふらっとバスを今後も継続して運行してもらいたいのか」という質問に対しても、「今まで通り運行してほしい」が 7 割を超えている。

### 4-2. 主要バス停における聞き取り調査結果

武蔵が辻・近江町市場、香林坊・千石通りのバス停で 27 名の乗降客に対して行った聞き取り調査結果を示す。



利用目的の 6 割が買い物であり、その他は、通勤・通学・通院・観光など、様々な理由で利用している。また、8 割の方が免許を持っておらず、免許のない人にとって大事な存在である。他にも 15 分間隔から 20 分間隔に変更になったことで、減便にがっかりしたという声が上がっていた。



聞き取り調査の様子

#### 4-3. デジタルフォトコンテスト



プロの視点による最優秀賞（戌亥様）



ゼミ生が選ぶ最優秀賞（しゅん様）

デジタルフォトコンテストの応募総数は 8 件であった。また、入賞作品は、プロの視点による最優秀賞 1 点、最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、特別賞 1 点とした。

#### 4-4. 思い出川柳コンテスト

思い出川柳コンテストの応募総数は、226 件（はがき等 65 件、Google フォーム 161 件）であり、入賞作品は、最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、特別賞 2 点とした。以下に最優秀賞と優秀賞を紹介する。

##### 最優秀賞

百円で 思い出一生 ふらっとバス （しなやかーる様）

##### 優秀賞

バス来たよ 孫の介助で 寺参り （しげるこ様）

車窓から 雪の風情の 兼六園 （働き蜂ちえちゃん様）

百万石 殿の気分で バス巡り （横山様）

#### 5. 次年度以降の計画

次年度以降も、引き続き聞き取り調査の実施を行う。沿線公民館に直接足を運ぶなどして声を聞くことができないか検討したい。また、沿線のアンケート調査ではもっと多くの回答を得ることができるよう、他団体からの協力を得ることも考えている。さらに、好評であった川柳コンテストも実施したい。フォトコンテストは、応募総数は少なかったものの、優秀な作品が届いていることから、応募の仕方等の工夫が必要かと考える。

#### 6. 活動に対する地域からの評価

本事業に協力していただいた、金沢・LRT と暮らしを考える会 会長・毛利千香志氏より、活動に対して以下のコメントをいただいた。

金沢ふらっとバスはここ 10 年、徐々に利用者が減っているが、市民の足としての役割は変わらず大きい。そのため、行政や事業者とともに市民も利用促進に努めることが重要である。その意味で、「デジタルフォトコンテスト」、「思い出川柳コンテスト」とともに、改めて同バスへの注目を集め、利用促進に寄与したものと思う。発表された入選作を見て魅力を感じ、ちょっと乗ってみようと思った市民も少なくないはずだ。特に川柳コンテストには 200 人を超える応募者があり、それぞれ日頃の用事や観光での利用を思いながら作品を創っており、そのこと自体がふらっとバスへの愛着を深める契機になっている。次年度の活動につながる成果といえる。コロナ禍という制約の中で、学生が主体的に企画、実施した両コンテストを、連携団体として高く評価したい。

また、金沢市歩ける環境推進課に対してアンケート調査結果プレゼンテーションを行った際、中谷課長補佐より、以下のような内容のご講評をいただいた。

調査結果を拝見し、ふらっとバスが高齢者の交通手段として期待されていることや、まちづくりと絡めたふらっとバスの在り方を検討することの重要性を再認識させていただいた。結果を踏まえ、若い世代にも利用してもらう取り組みについても検討していきたい。今後も、学生らしい自由な発想でフットワーク軽く、地域に溶け込んだ活動をしてもらうことで、さらに有益な意見を聞くことができるのではないかと。ぜひ、期待したい。